日刊 動労千葉

85. 9. 24

No. 2046

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一一八（動力車会館）

（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉砕！

もうがまんできない！団交を拒否するんだ！11月ストライキ反撃だ

7・26監理委答申以降、当局は団交無視、処分の乱発等、労働組合否定・破壊の攻撃を強めている。これは十万人首切りにむけ、労働者、労働組合の息の根を止めようとする攻撃であり、われわれは生きぬくために猛反撃にうってでなければならない。

団交否定ー一方実施を許すな

監理委答申は、一年半後に十万人の首を切る文字通り未曽有の攻撃である。

従って、攻める側は生半可なやり方で貫徹できないことは百も承知であり、常識を一変したやり方で臨んできている。

第一に、協約・協定や労使慣行を無視し「業務開発センター」等、労働条件に関する様々な問題についても団交を否定ー拒否し、一方的に強行してきている。

労働条件の変更や運転保安上多くの問題をはらんだ事案について、「これは団交事案ではないので説明だけで実施します」など、当局が勝手に決めて強行するなどということがどうして許せようか。

労働者の屈服を狙う処分の乱発を許すな

第二に、自己保身に窮々とする局、現場管理者は、列車の運行確保や「職場規律」のみ優先し、規程を無視した指導や「口頭諮問」「カーテン」「服装」をはじめ、労務管理を強化している。

「新会社」のエサをちらつかせる一方で、抵抗する労働者には徹底した処分・弾圧を加える当局のカサにかかった攻撃をこれ以上許してはならない。

当局は九月十四日以降、ワッペン闘争に対し初めて不当処分を行ったのをはじめ、事故を起こせば直ちに乗務停止ー処分を行い、列車が一分遅れても責任を追及し、はては協約をも無視した岩瀬君への処分など、処分の乱発で労働者を屈服させようとしている。

いまこそ起って闘おう！

十一月下旬のストライキを打ちぬき、当局と監理委、中曽根に目にものみせてやろうではないか。

職場から

反動助役伊能の首切り暴言を許すな

津田沼支部機関紙『でんしゃ』（9/17）より

9月11日、朝の点呼前、誘導S君に対し伊能助役が、"今日は日勤だろう、後でちょっと話しがあるから"と声をかけた。話しの内容は、国鉄を辞めて、関東運輸局（自動車車検）に行け、ということであった。つまり、首切り強要に来たのだ。

すぐにピンときたS君は、"提示の関東運輸局のことだろう、その話しなら聞かない"と当然にもキッパリと拒否した。撃退された伊能は、それ以上口を開くこともできず、スゴスゴとひきあげたにもかかわらず、帰りの出庫電車の中で"あれだけ云ったのに何で来ないのか"おぼえていろよ"と、断じて許せぬ暴言をはいたのである。"おぼえていろよ"とは何ーとか！強迫、恫かつそのものではないか！われわれはこのような暴言が、ただひとりの組合員にかけられたものであるとは考えない。津田沼支部全組合員に対する首切り強要攻撃の始りであり、重大な挑戦であるととらえ、徹底的に弾劾し、責任を追及し、謝罪を求めるものである。反動助役伊能を断じて許すな！首切り強要を許すな！

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！